

## 建築の博物館 プラハを訪ねて

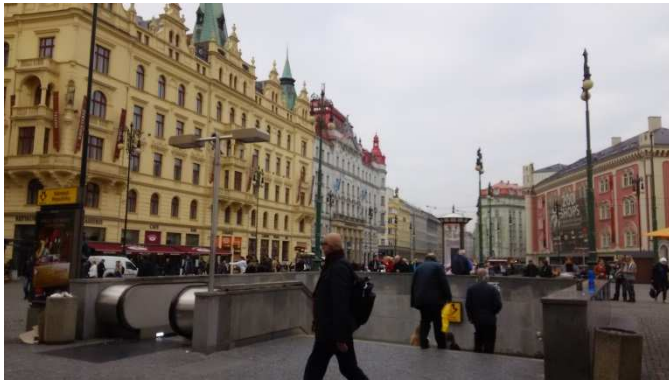
「プラハ市内」

2014/10/26～11/1 の日程で観光ツアーに参加し、中央ヨーロッパ(ハンガリー、スロバキア、オーストリア、チェコ)へ行って来ました。今回は、「建築の博物館」と呼ばれるプラハへ行くことが主な目的でした。

観光ツアーに参加した事もあり、観光時間も限られたものになりますので、旅に出る前  
にある程度の情報を手に入れて出掛けました。



〔プラハ市内〕



〔プラハ駅の近く〕

歴史、宗教、気候、地震の有無等を知らない、その土地の建築を理解出来ないと思っているからです。

事前の知識と、現地ガイドさんの説明を聞く事で、確実に知識を深めることが出来たと思います。



〔プラハ カレル橋近くのマーケット〕



〔1階がレストランになっており、ここで夕食をとりました〕

「伝統的な建築様式が現在に活かされているプラハ」

今回の収穫として、昼食でのレストランの事を取り上げたいと思います。ツアー6日目のプラハの昼食会場は、おそらく2年以内に改装された、とても綺麗なお店でした。プラハ市内での観光客が多く訪れるお店だと思いますが、地元の人もよく来るそうでした。建築に携わっている者として、まず目に入ってきたのがサッシでした。サッシが2重でガラスが複層になっていました。冬の寒さが厳しい所ですので、当然ではありません。



[サッシが二重で複層]

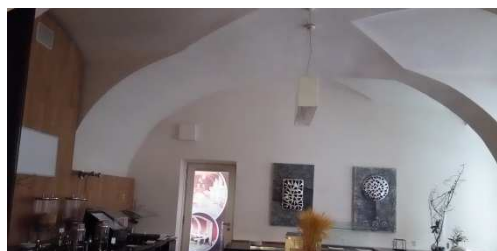


[ゴシック調の仕上げで照明も優れています]

日本でこの仕事を大工、左官職人へ依頼しても無理だと思います。推測ですが、プラハではこれぐらいの仕事が職人の標準レベルなのではないかと思いました。店舗の内装がゴシック調で施工出来るのであれば、住宅でも一般的に施工出来る事が想像出来ます。

日本でも和風住宅の良さが評価されるように、ヨーロッパでは古典的な仕上げが現代に脈々と伝わり、活かされている事を確認しました。

また、食事をしながら、何気なく天井を見上げてみると、天井がゴシック調で仕上げられていました。教会にあるようなものとは少し違いましたが、白色で上手に仕上げられていました。



[厨房もゴシック調で仕上げられていました]

### 「屋根の通気について」

プラハのカレル橋から古い建物の屋根工場の現場を見つけました。古くなった建物の家では、やはり波を打っている屋根を多く見かけましたが、ガイドさんの話では築 100 年以上の家が多いとのことでした。ヨーロッパの旅で、屋根の葺きの途中を見る事が出来て、とても幸せな気分になりました。

工事中の屋根の下地を見ると、瓦の下に通気層を作っています。やはり建物の耐久性、断熱性を高める秘訣はこれなのだ！と確信しました。おそらく何百年、いや千年以上前から、この工法が採用されていたかと想像するだけでも楽しくなりました。日本の伝統的な木造建物にはない工法です。



〔屋根の通気が分かる拡大写真〕



〔工事中の建物〕

この状態から屋根下地材の合板などを打ち付け、その上に瓦を葺くと思います。



D ウッドホームの屋根断熱工法の通気の見方は、プラハのものと見比べると同じ考え方だと思います。



〔プラハ城から、眼下のプラハ市内〕



### 「石畳について」

プラハから一時間程離れた、ボヘミア メルニック古城に行きました。

プラハでは地震がほとんどないので、壁はレンガ石等で造られ、天井、各階の床は木で造られているとのことでした。

ロマネスク調の建物からゴシック調、バロック調の建物が継ぎ足された古城でしたが、私の目を引いたのは城下町の石畳でした。



〔継ぎ足された建物です〕



〔石畳の施工中〕

石職人が丁寧に石を敷いていました。私が写真を撮影していたら、ツアー同伴者の人達も同じように写真を撮りはじめたので、職人さんは照れながらも喜んでいました。

古城での石畳を見ますと、良くコーディネートされており、その芸術性の高さに感動致しました。



〔石畳〕



〔古城近くのシンプルで落ち着いたある民家〕

「まとめ」

最後にウィーン、ブダペストへも行きました。行った所々でもっと見学したい所があったのですが、軽く観察するだけで精一杯だった事が残念です。

ウィーンでは最新の建築物を見て来ましたが、「地震がないという事でデザイン重視でも建てられる」と、建築知識が豊富なガイドさんに聞き、なるほどと思いました。

(ガイドさんは日本人で、ウィーンの大学に留学、チェコ人と結婚された方でした。)

日本は地震国ですので、デザインも大切ですが、やはり構造を第一優先として家造りのお手伝いをさせて頂く事を再確認致しました。



〔オーストリア 1 の銀行ビル〕

(ガイドさんの話では、外周が外壁というよりほとんどガラス張りという細い柱で建築されているとの事)



〔ウィーンのベルベデーレ宮殿上宮から庭園～下宮を見たところ〕



〔カレル橋にて プラハ市内を眺めて〕

2014年11月8日

D ウッドホーム 社長 山木敏夫